

# 聞こえない友達と遊ぶために **ここ、変えてみたらどう？**

## あそび5 “カニ”さんが歩いた (だるまさんが転んだ)

- 「だるまさんが転んだ」の声が聞こえないから、鬼がいつ振り返るか分からないね。
- 鬼が3回ジャンプしてから振り返ると、動きで分かるね。
- いつ「切った！」をしたか、分からないよ。
- 切ったをせず、鬼の肩をタッチしよう！
- 鬼の「ストップ」の声が聞こえないよ。
- 鬼が手を上げたらストップしよう。横向きなら、いつでも鬼の方を見られるね。

横向きで動いたら、みんなでカニさんになろう！



みんなカニになった！

## あそび4 花いちもんめ

- 歌が聞こえないから、スタートのタイミングや足並みがそろわないよ。
- リーダーを決めてスタートの合図をだそう！手拍子をするとうるよ。
- じゃんけんのタイミングがそろわないよ。
- 指で「3・2・1」とやってから、じゃんけんしてみよう。
- だれを選ぶか話し合えないよ。
- 指さしなら選べるね。

全員の名前が書いてあるリストを用意すると、手元で指さしできる！

誰にしよう？



### POINT

ルールを考える過程も大事だね。周りにいる人はどんな人で、一緒に何かをするにはどうしたらよいか考えてみよう！

### ◆松森さんのコメント

「手話ができないと、聞こえない人とのコミュニケーションが難しい」と思う方が多いように、聞こえない人達も「聞こえて大変」って思います。それは聞こえないからバリアがあるのではなく、コミュニケーション手段が違うからなんです。今回のワークショップでは、聞こえることが前提のルールで遊ぶときに取り残されてしまう「聞こえない人」がいることに気づき、どうしたら一緒に遊べるか聞こえない当事者と共に対話をしながら考えました。どんなことに困るのか、どうしたら解決できるのか、実際に遊びながら手話やジェスチャー、筆談など、多様なコミュニケーションを楽しみながらできたのも良かったです。

視点を変わると物事の見方が変わります。視点を増やすと世界もコミュニケーションも広がります。その気づきは、社会が変わる第一歩になります。

聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐUDアドバイザー



松森 果林氏

# みんなで楽しめる新しいルールで遊ぼう！

## あそび3 スイカ割り

- ### 案内する人
- 2本の指さし棒を持って、割る人の後ろに立つ。
  - 割る人をスイカに向ける。
  - 体をタッチして歩く方向を教える。
  - 割ってほしい場所になったら両肩を2回タッチ！

- ### 割る人
- アイマスクをして棒を持つ。
  - その場で3回まわる。
  - タッチされた体の位置で歩く方向を決める。
  - 両肩を2回タッチされたらスイカを割る！



## 遊んでみてどうだった？ 聞こえない人の声

初めて会った人同士なのに、困ったことをどのように解決するか対等に話し合っ、素晴らしい遊びになったと思う。世田谷区から日本中に発信して全国に広めたい遊び方だと思う。

子どもの頃「だるまさんが転んだ」をするときは、聞こえるみんなに合わせて後ろからついていながら遊んでいた。先頭に立って歩いた経験はなかった。みんなと相談し、ルールを変更して交流し、とても楽しめた。

姉妹で小さいときにたくさん遊んだが、私だけ聞こえないので、実は周りの雰囲気に合わせて遊んでいた。この遊び方は、人生でこんなに面白いことがあったかというほど楽しかった。

ルールを変えたり工夫することで遊べなかった人も遊びに参加できるという考えは、昔からみんなが持っていたと思う。従来のルールに固執する社会が人を作っていたのかもしれない。また、聞こえない人はダンス経験が少ないため、踊り方も教えてほしい。

小学生の頃は聞こえる人たちと一緒に生活していた。「花いちもんめ」や「だるまさんが転んだ」などをやったことはあるが声で遊ぶのであまり楽しめなかった。この遊び方は、子どもに戻りたいと思うほど楽しかった。

聞こえない人も楽しめる遊びが増えたことがとても嬉しい。聞こえる、聞こえない、手話ができる、できない関係なく一緒に楽しめることが非常に良かった。